

自己点検・評価報告書

評価期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日

お茶の水はりきゅう専門学校

令和7年6月25日作成

【1】 自己点検評価の実施について

本校では、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って、教育活動全般に渡り、自己点検・自己評価を実施しています。

また、その結果をもとに教育内容や学校運営を見直し、改善を図り、より質の高い教育を提供出来るよう尽力して参ります。

【2】 出席者（教職員）

氏 名	役 職 ・ 所 属 等
大山 良治	校長
原田 晃	副校長・学科長
笹井 彰	事務長・広報課長
白川 一敬	経理課長（日本薬科大学）
吉岡 誠	教学課長
向田 順子	総務課長

【4】 日時・場所

令和7年6月20日（金） 午前10時00分～午前11時30分
お茶の水はりきゅう専門学校 校長室

【5】 委員会次第

- (1) 開会・・・向田
- (2) 校長挨拶・・・大山
- (3) 令和6年度自己点検・評価報告・・・出席者
- (4) 意見交換・・・出席者
- (5) 閉会・・・向田

目 次

基準1 教育理念・目的・育成人材像等

- 1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか
- 1-2 学校の特色はなにか
- 1-3 学校の将来構想を抱いているか

基準2 学校運営

- 2-1 運営方針は定められているか
- 2-2 事業計画は定められているか
- 2-3 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか
- 2-4 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか
- 2-5 意思決定システムは確立されているか
- 2-6 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

基準3 教育活動

- 3-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか
- 3-2 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか
- 3-3 カリキュラムは体系的に編成されているか
- 3-4 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか
- 3-5 授業評価の実施・評価体制はあるか
- 3-6 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
- 3-7 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
- 3-8 資格取得の指導体制はあるか

基準4 教育成果

- 4-1 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか
- 4-2 資格取得率の向上が図られているか
- 4-3 退学率の低減が図られているか
- 4-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

基準5 学生支援

- 5-1 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか
- 5-2 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか
- 5-3 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか
- 5-4 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか
- 5-5 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか
- 5-6 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか
- 5-7 保護者と適切に連携しているか
- 5-8 卒業生への支援体制はあるか

基準6 教育環境

- 6-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- 6-2 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- 6-3 防災に対する体制は整備されているか

基準7 学生の募集と受け入れ

- 7-1 学生募集活動は、適正に行われているか
- 7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
- 7-3 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか
- 7-4 学納金は妥当なものとなっているか

基準8 財務

- 8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- 8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
- 8-3 財務について会計監査が適正におこなわれているか
- 8-4 財務情報公開の体制整備はできているか

基準9 法令等の遵守

- 9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- 9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
- 9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか
- 9-4 自己点検・自己評価結果の公開はしているか

基準10 社会貢献

- 10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか
- 10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

1 教育理念・目的・育成人材像等

基準	評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切
1-1	理念・目的・育成人材像は定められているか 建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」のもと、生徒一人一人の個性を尊重し、鍼灸医療の本質である「全人的医療」を深く理解した優れた人材の育成を目指している。	4
1-2	学校の特色はなにか 建学の精神である「個性の伸展」を堅持している。当校の特色である様々な実技教育を通して個々の生徒に適した鍼灸師育成指導を行っている。	4
1-3	学校の将来構想を抱いているか グローバル化、高齢化など、時代に即した鍼灸師の育成を念頭に、老年医学分野、海外等で活躍できる鍼灸師を輩出して行く。	4

① 課題

② 今後の改善方策

③ 特記事項

- ・ 建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」を基本理念として、堅持している。
- ・ 本校では、PCでのeラーニングシステムの採用（オンデマンド授業聴講システム）、日本薬科大学と連携した教育を実施している。また、附帯教育により学生のスキルアップを図れるものと確信する。
- ・ 今後も時代のニーズを捉えた改善が重要である。

2 学校運営

基準	評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切
2-1	運営方針は定められているか 都築学園運営方針により指針が示されている。	4
2-2	事業計画は定められているか 運営方針に基づき年度事業計画を作成し実施、事業報告はホームページでも情報公開している。また、業務予定等は4月以降逐次修正し、業務を実施している。	4
2-3	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 関係規則に基づく組織・編成となっている。 校内においては機能組織図の職責に基づいて、業務を進めている。	4
2-4	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 都築学園規程により、整備されている。	4
2-5	意思決定システムは確立されているか 組織ごとに会議等を実施して意思の疎通を図っている。 具体的には、「教職員会議、週間M、教員M、治療院M、広報会議」を実施している。	4
2-6	情報システム化等による業務の効率化が図られているか 業務用PCによりシステム化されており効率的である。(サーバー保存や校務システムにより情報の共有を図っている)	4

① 課題

- ・ 事業計画については業務運営計画にその作成手順を明記し、計画的に作成・運営を図る。
- ・ 業務予定は、逐次法人埼玉事務局と調整を実施し、事業計画に沿った業務運営を実施することで体制整備に努めている。

② 今後の改善方策

- ・ 関係部署との密接な連携を保持し、実行可能な計画の策定。

③ 特記事項

- ・ 業務運営計画内の業務予定等は4月以降、逐次修正し学校業務を適正に実施している。
- ・ 各種会議等の参加者及び開催頻度は下記の通りである。
教職員会議（校長、専任教員、課長以上の事務職員 1回/月）
週間ミーティング（副校長・学科長、課長以上の事務職員 必要の都度）
教員ミーティング（専任教員 1回/週）
事務職員朝礼（事務職員、毎朝）
治療院ミーティング（院長、施術員、校長、事務長、総務課長 1回/月）
広報ミーティング（校長、副校長・学科長、事務長・広報課長、教学課長、広報担当教員・職員 1回/月）

3 教育活動

基準	評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切
3-1	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	4
3-2	各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか 3-1、3-2 共通 「惻隱の心を持った医療人」の育成のため、実技授業を中心に治療技術のみならず医療人としての人間性に関する教育を行っている。具体的には各実技授業、医療概論、臨床実習の中で医療人としての振る舞い、心構えを3年間の教育課程で社会のニーズに応えられるレベルに到達できるように設定している。	4
3-3	カリキュラムは体系的に編成されているか	4
3-4	学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-3、3-4 共通 各教科、段階を踏んで順次ステップアップできるよう、基礎、応用、実践という順序でカリキュラムが推移するよう工夫されている。	4
3-5	授業評価の実施・評価体制はあるか 必要に応じて随時、個人面談を実施しており、その中で授業の評価を行っている。問題のある授業については担当教員に改善するよう指導を行っている。	4
3-6	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
3-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-6、3-7 共通 教員の選考には模擬授業を行っており、育成目標を達成できる要件を備えた教員を採用している。また、成績評価の認定基準についても教員間で周知徹底している。	4
3-8	資格取得の指導体制はあるか 基礎科目を除くほぼ全ての科目は鍼灸師教員免許保持者が教授しているため、鍼灸師の資格取得の指導は徹底されている。また、2・3年次に国試対策の補講や、国家試験対策模擬試験等を積極的に行っており、令和6年度は、はり師93.6%、きゅう師93.6%の合格率であった。	4

① 課題

② 今後の改善方策

③ 特記事項

本校の特徴

1. 昼・夜間部共に定員28名という少人数制による行き届いた教育
2. 履修科目免除制度による負担の軽減
3. 複数教員による目の行き届いた実技教育
4. クラス担任制度による個別指導

4 教育成果

基準	評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切
4-1	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 就職課を中心に就職指導を積極的に行っている。具体的には、本校で行う就職説明会や、就職先の見学会などを積極的に行っており、就職率は非常に高い。	4
4-2	資格取得率の向上が図られているか 基礎科目を除くほぼ全ての科目は鍼灸師教員免許保持者が教授しているため、鍼灸師の資格取得の指導は徹底されている。また、2・3年次に国試対策の補講を行っており、令和6年度は、はり師93.6%、きゅう師93.6%の合格率であった。	4
4-3	退学率の低減が図られているか スクールカウンセラーによるカウンセリングの活用を促したり、教員による個人面談を行うなど生徒の悩みを早期に発見し、退学率の低減に努めている。	4
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか 卒後の生徒と個人的に連絡を取るなどして、卒業生の社会的な活躍はある程度把握しているが充分ではない。令和3年3月から同窓会が組織され、令和4年度からは卒業生と、より密な連絡を取れるようなシステムを構築し、卒業生の社会的な活躍を把握していきたい。	4

① 課題

- ・ 卒業生や在校生の社会的な活躍について、更なる把握に努めたい。

② 今後の改善方策

③ 特記事項

- ・ スクールカウンセラー（臨床心理士）の配置（16：50～19：50／毎週水曜日）現在申込制

5 学生支援

基準	評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切
5-1	就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか 就職課を中心に就職指導を積極的に行っている。具体的には、本校で行う就職説明会や、就職先の見学会などを積極的に行っており、就職率は非常に高い。また、教員養成科への進学指導も希望者を対象に行っている。	4
5-2	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか スクールカウンセラーによるカウンセリングの活用を促したり、教員による個人面談を行うなど生徒の悩みを早期に発見し、問題の解決を図っている。	4
5-3	学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか 奨学金の担当者を配置し、日本学生支援機構を中心に手続きなどの対応をしている。また災害などにもその都度柔軟に対応している。 日本学生支援機構奨学金受給者(令和6年度 1年9名、2年3名、3年1名)	4
5-4	学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか 生徒が病気や怪我で学校を休む際は必ず担任教員に連絡を入れさせている。また、校内で体調不良となった場合教職員がこれに対応し、必要な場合は保健室を使用、かかりつけの病院へ搬送している。	4
5-5	課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか 解剖学実習、薬草園見学、各種勉強会、学会、附帯教育への参加を呼び掛けている。	4
5-6	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 学生寮は学校案内を送付する際に提携学生寮のパンフレットも同封している。また、鍼灸治療院や整骨院などのアルバイトも多数紹介し、求人コーナーで自由に閲覧することができる。	4
5-7	保護者と適切に連携しているか 学業などに問題がある生徒が未成年の場合、保護者と連絡を取っている。また生徒が未成年でない場合でも必要に応じて保証人に連絡を取っている。	4
5-8	卒業生への支援体制はあるか 卒後1年間、附属治療院での「卒後研修制度」があり、毎年多くの卒業生が利用している。また、同窓会を通じて卒業生へのリカレント教育や就職相談などを積極的に行っている。	4

① 課題

② 今後の改善方策

③ 特記事項

- ・経済的側面に対する支援は、早期入学特典を利用することで学費の負担軽減に対応している。

6 教育環境

基準	評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 関係規則に基づき教育上必要な施設等を保守整備している。 建物の設備管理は設備管理会社に委託し、定期的(安全設備点検)に適切な管理を実施している。	4
6-2	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 姉妹校である日本薬科大学での薬草園見学、外部の治療院見学、解剖学実習、企業主催の学生交流会などに参加している。また、同窓会主催の台湾研修旅行(中国医薬大学)が実施された。(2024.3)	4
6-3	防災に対する体制は整備されているか 教職員による学校自衛消防隊を編成しており、火災発生時は速やかに消防隊を編成、通報連絡、初期消火、避難誘導等を実施する体制を整えている。 災害等に対応する防災用品の備蓄(水・非常食)については一人ずつ非常食セットを用意しているが、防寒具など一部不足しているため、計画的に備蓄準備を進めているところである。	3

① 課題

- ・ 校内で防災に対する備蓄資器材の保管場所の確保に努めることが必要である。

② 今後の改善方策

- ・ 防災に対する体制の整備として、計画的に備蓄を進めていく。

③ 特記事項

7 学生の募集と受け入れ

基準	評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切
7-1	学生募集活動は、適正に行われているか HP・リクルート・マイビズ・SNS等のWEBでの広報を行っている。 また、体験入学や学校見学等のイベントを積極的に行っており、高校や治療院等への資料発送や訪問広報を行っている。	4
7-2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 国家試験合格率・就職状況等の説明を行っている。	4
7-3	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか 書類審査と面接・小論文(高校生で一般入試の場合)で選考を行っている。 面接は複数の教員が入学試験評価表に基づき、入学選考委員会において人物や意欲を確認し、公平に選考を行っている。	4
7-4	学納金は妥当なものとなっているか 他校の調査を行い、適正なものとなっている。	4

① 課題

② 今後の改善方策

③ 特記事項

8 財務

基準	評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 入学者数も確実に増加しており、財務基盤としては安定傾向にあると思われる。令和5年度は95.2%、令和6年度は96.4%とかなり向上しており、この状況が維持できれば財務状況はより一層安定していくと思われる。	4

8-2	年度予算・収支計画は目的・目標に照らして有効かつ妥当なものとなっているか 予算、収支とも実績をもとに優先順位や費用対効果を考慮して計画されている。特に、執行については支出を抑えつつ、計画的に実施されている。	4
8-3	財務について会計監査が適正におこなわれているか 定期監査1回、年度末監査1回を実地監査で実施している。 体制、スケジュールとも適時、適正に実施されている。	4
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか 法人本部からのデータに基づきホームページに掲載公表している。	4

① 課題

・ 募集定員の安定的な確保が最重要課題である。

② 今後の改善方策

③ 特記事項

9 法令等の遵守

基準	評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切
9-1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 関係法令、設置基準に基づき運営されている。	4
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 教職員に対し教育を実施し、適切な対応を求めている。 個人情報等資料の保管は、鍵のかかる場所に適切に保管しており、その鍵の保管についても適切に実施している。 不要文書は、シュレッダー等により適切に処理している。	4
9-3	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 自己点検・自己評価を実施し、改善に努めている。	4
9-4	自己点検・自己評価結果の公開はしているか HPで公開している。	4

① 課題

② 今後の改善方策

③ 特記事項

- ・ 自己点検評価委員会、学校関係者評価委員会を実施後に、評価結果はHPで公開している。

10 社会貢献

基準	評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 附属治療院を通して地域の方々の施術所となっている。	4
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 使用済み切手を収集し、寄附している。	3

① 課題

② 今後の改善方策

③ 特記事項

- ・ 学校の規模が小さいので本校の教育資源や施設を活用した社会貢献には限界があるが、その中で、毎年多数の患者さんが附属鍼灸治療院において治療を受け、喜ばれている。
更に本校教員が、日本薬科大学で開講している文部科学省認定職業実践力育成プログラム（BP）の講師として、地域住民を中心としたリカレント教育を行うなど、積極的に社会貢献を行っている。